



機関誌

# 一水会

創刊号

発行日/2013年12月15日  
発行人/小川 游  
編集責任者/さきやあきら  
発行/一水会事務局  
〒330-0074  
埼玉県さいたま市浦和区  
北浦和5-3-3 B-108  
山本耕造方  
Tel.048(816)8805  
<http://www.issuikai.org/>

## 二十一世紀に於ける選択

写実主義を掲げる一水会が、今日的視野にたつてめざす方向は、ひたすら、先人たちの足跡をなぞるのではなく、自らの手で、道をつけることであらねばなるまい。

一、写実の定義を大胆に拡大し、たとえ、抽象傾向の作品であっても、真摯な姿勢と表現の真実性がみとめられるものは、積極的に評価する。

二、平明な自然描写の、その先にあるものを探る思索の形跡と、精神性の有無に評価の重点をおく。

三、右の志向を共有する作家集団の形成を最大目標とする。

以上の方針を実現するために、活発な広報活動等により、討論の場をひろげ、会の体質強化につなげる作業にとりくむ。

以上  
一水会

## 小川游先生

訪問インタビュー

今年二月、都美術館より「公募団体ベストセレクション 美術二〇一三展」図録への掲載文として、『一水会の今後の展望について抱負を語っていただきたい』と、要請がありました。

これを受けて

小川先生がお書きになられた一水会の当面の方針と、実現に向けての道筋は反響を呼び、大いに話題になりました。上梓に掲載の『二十一世紀における選択』と題されたこの文章は、今後の作品評価の

指標ともなりうる、豊かな示唆に富んだ内容を含んでいます。このたびこの内容を巡り詳しいお話を伺いすべく、本会代表の小川游先生のアトリエを訪問いたしました。

梅雨晴間の昼下がり、お庭では柏葉紫陽花が艶めき、夏椿が涼しげに揺れていました。

聞き手 新井 隆  
写真撮影 西真里子

「この『指針』に運営委員の先生方も大いに共鳴されたと伺いました。

三越の選抜展の少し前あたりに行われて、書いた。

一水会という穏健な写実の

団体として内外ともに評価が定まっただけでそれは良いのだけれど、創立会員は押しも押されもしない時代の先覚者だったし、画家としても日本の知識人を代表する教養人としても超一流揃い。その後も脈々として位取りの高い、会系にある通りに西洋絵画の正道を行き、現在まで来ている。

偉大な先輩がいることは有難いが、尊敬するだけではなくてやはり、自分達がいま何をして行くかということが大事で、ただ昔の立派な人達を見様見真似で真似るだけでは駄目なんじゃないかということ。尊敬するということと、それに頼り切ることとは別の事だと思う。

「なぞるのではなら」とはそういうことですね？

絵を見て何先生の画風そっくりだという人がいるでしょ。伝統を受け継ぐという面ではその通りかもしれないけれど、ただ模倣しているというだけでは何の新しいみも無いわけだから、そこにもっと格闘があつていいのではないか。自分の目指すものがなくてはいけないと思うんだ。畑は違うけれど、宮本武蔵な



んていう人は『五輪の書』とかで書いてあるけれど、「神仏は敬すべし、頼むべからず」と。だからただ最敬礼しているだけではだめ。それに寄り掛かってぶらさがっているだけではね。そこが一番の突きつけられているテーマだと思っし、もがいてもがいて苦しんで、でも何とかそこから自分達の目指すものを掴んで行かなくや。

そういうことを考えたから書いたんだ。

一、について

「表現の真実性」がキーワードでしようか？

真摯な姿勢と表現の真実性をも写真のうちに含む。スタイルではなく、籠められた真実性というのとは一種の写真だと思っ。真剣な取り組み、表現が借り物ではなくて自分がそこに辿り着いた真剣さというものは、自分の真実を吐露して行くのだからそういう意味では写真だと思っ。まああすつかり丸や三角では困るだろうけど。記号的なものではね。あまりにもね、コンテンポラリーというか…。相当議論の余地はあると思っが、やはり自然を一回ぶち壊してそこ

から何か自分が生み出していく形ってあると思っし、向こうに見えるものだけではなくてね。

一自分が生み出して行くかたち。

造型的にね。自分の心情に片寄ったものとか、あるいはもつとドライに立体派の人たちがやったような造型的に組み立てて行くことであつても何れであつても、いろいろなタイプがあつて良いのでは？

平たく言えば抒情派もいていいし、アンチ抒情派でドライにセザンヌのような出発点から始まつて行く、近代絵画の方向の系列でもいいわけだ。

一創立会員の「写真」はそのセザンヌあたりからの影響が大きいと思われまふが。

それはあると思ひます。たとえば有島先生は日本にセザンヌを最初に紹介した人。

当時、絵描きにはセザンヌを知っている人はいたと思っが、日本の一般大衆がまだセザンヌを知らない頃、セザンヌこそ近代絵画の父と呼ぶに相応しい人だということの有島先生が日本に持ってきた。

有島先生は絵描きとしての役

割以上に、教育者というか啓蒙家としての功績がいっぱいあつた。白樺派の人の生き方だと思っうけれどね。

裕先生はマティスとかゴッホの大きな展覧会を日本に最初に持ってきた人ですよ。

安井先生はそういう派手なことはしなかったが、身をもつてピサロからセザンヌを留学時代に徹底的に学んで、その成果を自分の作品で示した。有島先生や裕先生のように派手な社会活動はしなかったが。

石井柏亭先生には著作が多い、多い。一水会定款の略史の中にも、柏亭先生がどんな仕事をしたか僕が分かっている範囲で書いておいたが、柏亭先生はリーダーでした。双台社（そつたいしゃ）という、日暮里あたりの高台でアトリエを構えて一水会のかんりの大集団がそこで勉強した。

そんな人たちが代表するようにな、小山先生、木下兄弟とかそれぞれ一家を成すだけのいわゆる大家です。その人たちの偉大さの前に土下座し、ただひれ伏していたのではそれは尊敬する事とは違ふんじゃないか。土下座して最敬礼していれば良いと

いうものではないと思っ。

一先人たちの写真観と今流行っている細密描写との違いは？

一水会にも写真みたいな絵が無いわけじゃない。かなり多く見受けられるが、それにもよく見ると質のいいのと、ちよつとこれはどうかあつたというのがある。絵としての良さ、ただ本物そつくりには描けばいいというものでなく、香り、絵としての良さ、そういうものが無くては。

そつてもつと振りかぶつた言い方をすると、精神性が無いとな。たとえばホルバイン、スルバラン…。

ああいう人たちの静物画なんか観ているとただの物体じゃなく、何か非常にじわつとく

るものあるじゃない。どうせならそういうものをひとつ、頑張る。

二、について

創立時より目指してきたことの再確認・再認識を求める言葉と思ひますか？

平明な自然描写は一水会では多いので観易いし、一般の人でも観て本当に解り易いと言っけれど、それで大満足ということではないと思っ。一般の人、素人が観て頭ひねらないと解らないようなことが無いのは平明な自然描写だからです。

それで観る人は満足しても、描く側としてはそれで満足しているだけではだめなんじゃないか。

一描写の先、ですな？

一生懸命やつていっうちにそつういっもの生まれて来ている人、ぼつぼついます。

例えば石川県の宇野のり子さん。あの人の静物なんかは、そつういっ精神性みたいなものを持つつ絵に近づいてきていっ。はじめはただお洒落な鳥籠なんか描いて明るい絵だつた。平明な楽しくなるような美しい絵だつたけど、やはりそれだけでは満足できなかつたんでしよつうね。そ



してやはりそこに内面性と言うか、岸田劉生の言う「内なる美」というやつだな。

外に表れているものだけではなく、内なる美という言葉で言っている劉生は、林檎一つ描いてもそっくりに描けてるだけで満足していませんでしょうか？そこに何か在るのでしょうか？作家の、大袈裟に言うとう自分のすべを賭けたような闘いがあるはず。だからそういうものを目指して行く。

一水会はただ明るく楽しくきれいに描かれているという評価に満足しないで、もう一步その先のもの、自然を観てもその自然のもう一つ先にあるもの、先ものを観たいという姿勢。だけれどそれは皆それぞれ同じ表現でなくて良いわけ。

ルオーの絵とルノワールの絵が全く違うように人それぞれ。明るい大らかな性格の人が深刻ぶって絵を描く必要はないわけだ。西真里子さんが、自分の特質を失くして眉しかめて描く必要はないわけだね(笑)。皆それぞれの人の特長を存分に發揮してもらいたい、しかしどんな絵であつても表面描写に満足しないという、その気迫みたいなもの



のだけは示してもらいたいね。

### 一三、について

集団、団体の力はやはり大きいとお考えですか？そしてどのようになその力を發揮して行けば良いと思われませんか？

それはだからそのために次の世代をやつていく精鋭展(新鋭展)をやつていたりしているわ

だけだ。

このまえ(第一〇回)の精鋭展、僕はとても良かったと思うんだ。ただ大勢選べば賑やかな

展覧会になるだけではなく、しるぎを削るようなそういうものを期待していたが、それが期待以上にあつた。あれはね、嬉しくなりましたよ。

―大勢でしか出来ないようなことが上手く出来ていましたか？

一人一点だったかな？一水会以外の人が観ても非常に評判良かったと思ひましたよ。ああいうものがあるのだから、もつともつと一水会はそういう人たち活躍の場を与えて行かなきゃと思つたね。

―あの場で初めて言葉を交わす人などもいて、皆さん良い刺激を与えていましたか？

作家集団の形成を最大目標とするとしたことは、ただ精鋭展のようなものが出来ればそれで良いという意味じゃないけれどね。

一水会の方向というもの、前からの関連があるように、ただ毎年年中行事を繰り返しているのではなく、ここでひとつ方向を考えて行くということ。そういう良い仕事をしている人を探す。技術だけで入落決めて、自分の弟子が幾人入ったから良かったとかそんなことではなくて、良い仕事を見つけて行く。可能性を秘めた作家を見つけてそれを育てていくということ。それが審査員になつていてる人に背負つてもらいたいことだね。

自分の地域の勢力を拡大すること

とだけではなくて、良い作品、可能性のある人を発見しようという、審査の場がそういう審査風景になつて行つて欲しい。そういう願いで「二二」を書いた。

### ―結びの言葉について

地域の活動を伝えて共有し合えば、全体の幅と奥行きも増すと考えていますアドバイスを。

「会員懇話会」というのは昔あつた。

その仕事に深く関わつたことではないので良く判らないが、広報誌みたいなものは見たことがあつて、しかし、さきや君がここで考えていることは全く次元が違うと思う。

前のは消息便りのようなものだった。何かポリシーを持つたひとつの目指すものを持つた広報活動というのとは違つて、いわゆる親睦会的なものだつたと思う。

―逆に言うとポリシーを持つて活動して欲しい、ということでしょうか？

そう！そういうことですな。

以上  
『二十一世紀に於ける選択』を巡つて

# 「特集」 一水会

## 75回 記念 展

### 展 評



本山唯雄

今年の一水会展から、何点かの作品を取り上げてみたい。まず小川游。「白き神の座」。雪を静かに抑えて人肌のあたたかさを思わせるホワイトの妙。山岳の表情は見事である。

「青と白と音楽の静物」戸苅武宏。卓上の置物を精緻に描き上げた、見事な静物画。

「或る風景」久保慶議。茶色のモノクロで描き上げた街景。見詰めているとさまざまな色が浮き出してくるのが不思議。

「造船所と運河」河石正義。船と街景が見事に絵を作り出して



ともしび 本山 唯雄

いる。空がかすかに見える構図も面白い。

「曙光」久世夢二。自転車が同じ路上を何回も回っている形が斬新で、自転車の影が見もの

「朝美二歳」澤口常康。娘のさりげないポーズが、室内にうれい調和を見せている。

「追憶(暮愁)」安藤忠雄。暮れゆく山間で、紫のモヤがしみ渡る美しさは、今でも忘れられない。成長を重ねた大木の肌を手を置くと、何かなつかしさを覚えるのも、不思議な感じだった。

以上

### 新 会 員 紹 介

#### 市川広美さん



緊張の面持ちで壇上に登り、初入選の自己紹介したのは、二十六歳の秋でした。あれから？十年…。相変わらず長野の田畑と山々に囲まれて、絵を描いています。テーマが決まらず悩んだり、独りよがりの絵になったりの連続ですが、これまで続けて出品する事ができたのは、先生方や先輩達の温かいご指導と励ましののおかげだと感謝しています。今後、少しでも魅力的な作品を出品できるようパワ―全開で頑張ります！

#### 伊藤 玲子さん



私は一九三〇年大阪府に

生まれました。小学校と女学校は読み書き算盤、修身が中心で図画は臨画のみの勉強をしました。十四歳から学徒動員で軍需工場勤務となり、絵画に接する機会も余裕もなかったのです。戦後師範学校で写生、自由画を初めて学びました。

#### 武田 三起さん



生方のご支援の賜と深く感謝しております。これからも詩情豊かな風景画を描きたいと念じています。今後とも変わらぬご指導をよろしくお願い申し上げます。

#### 山本 佳子さん



このたびの会員推挙は正に夢のような出来事でこれからは会員の名に恥じぬよう、尚一層努力精進してまいります。

#### 正田 武さん



敗戦後絵具は高くて薄塗りの絵を描いていました。基礎を学ばなかった私は未だに構成の甘さや画面の猥雑さが短所です。幾何学的に整理された絵に憧れ、日々研鑽しています。

#### 前田 多津子さん



途途中で人物画に変わり、悩み苦しみはありましたが、楽しくもあり充実感もありました。そして今、私にとってはとても大きな夢が叶いました。これからは絵を描く事の楽しさ素晴らしさを噛みしめながらできる限り続けていきたいと思っています。

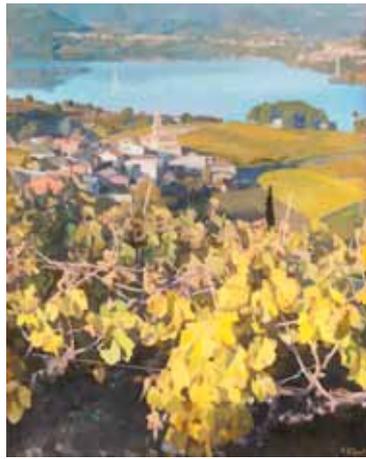
池田清明先生の絵に憧れ、先生のご指導のもとに

これは気持も一新して技術を身に付けることに力を入れ、会員の名に恥じない絵を描いてまいりたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

今、瀬戸内海や四国直島の最南端で中学校教員の夫と小学生の娘と暮らしています。



一水会優賞  
冬日 平井 芳夫



一水会優賞  
ワインの村 菊地 洋二



文部科学大臣賞  
雨霞む道 弓手 研平

## 受賞のことば

### 文部科学大臣賞 弓手 研平さん

「雨の線」を150号縦に描く上で、試行錯誤の末にとある技法に辿り着きました。それは油絵具をたっぷり含ませた風糸を、大工さんの墨出しよろしく画面の天地に張ってパチンと弾くという方法です。灼熱の真夏の画室で、日本人の琴線に触れるしとしと降る雨を描こうと、両手を絵具塗れにしなごら格闘しました。この度は誠に有難うございました。



### 一水会優賞 平井 芳夫さん



この度は、誠に有難うございました。今回の作品は、荒川河川敷近くの、冬の木立や枯れ草の風景に魅力を感じ、モデルに頼んだ妻を連れて、何度も足を運び、構図を決めました。モノトーンの中に、醸し出される情感を表そうと努めました。今後とも自分らしい表現ができるよう努めてまいります。

### 一水会優賞 菊地 洋二さん



### 一水会賞 戸苅 武宏さん



スペイン・ポルトガルが好きで、始めはアンダルシアやナザレのエキゾチックな風物に魅かれていたが、近年は人々の生活に密着した風土に興味が移ってきました。受賞作はス페인西北部のガリシア州リベイロ地方の小村の、秋

私は美術学校を卒業後、十五年ほど無所属として活動しておりました。しかし、三十代の中ほどになり、徐々に閉塞感、焦燥感に苛まれ、迷いに迷った末、絶える思いで七年前から応募させて頂きました。ただ、自分の描く絵は公募展向きで

の葡萄酒に取材したものです。ローマ時代からのワイン産地で、それも私の好みにあっています。

は無い、目立たない画風だと思っていましたので、今回の受賞は本当に驚きでした。誠にありがとうございます。

### 東京都知事賞 柳沢 賢一郎さん



私が絵を描き始めたのは還暦になった時です。最初は何でもやってみましたが、右脳で絵を描く訓練、美大の夜学に合格して毎晩通学。しかし私の絵は、田中義昭先生はじめ諸先生の厳しいご指導の賜物です。感謝の一語です。

『裏町』は、石の建物が朽ちてゆく様が西洋文明終焉の象徴であることを表現したものです。「猿の惑星」の自由の女神のように。

### 損保ジャパン美術財団賞 久保 慶議さん



この度受賞させて頂き、感謝の気持ちで一杯です。京都に生まれ、現在は奈良に住んでいます。自宅近くには、今もなお懐かしい町並みも残されており、そ

の周辺の公園が今回のモチーフです。使い古された滑り台に、子どもたちや親子が遊んだ記憶のようなものを染み込ませようと思いました。これからも、身近な風景の中にある、残されたもの、忘れ去られたものたちを、私なりの視点で描くつもりです。今後とも、御指導よろしくお願いいたします。





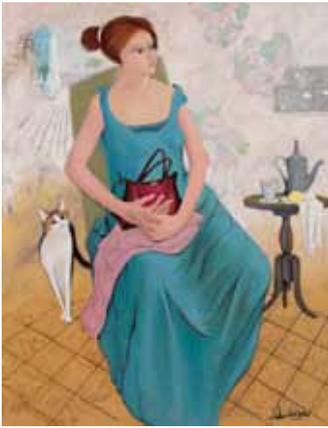
損保ジャパン美術財団賞  
或る風景 久保 慶議



東京都知事賞  
裏町 V 柳沢 賢一郎



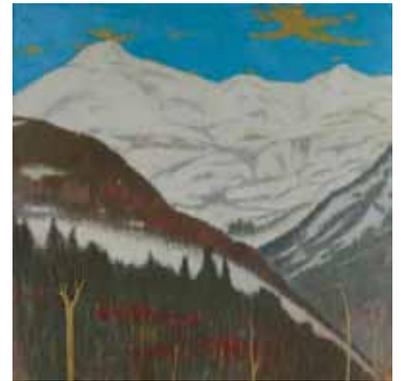
一水会賞  
青と白と音楽の静物 戸辺 武宏



サンタ・バーバラから来た女 菱田 義宣(遺作)



静物 田中 義昭



白き神の座 小川 游



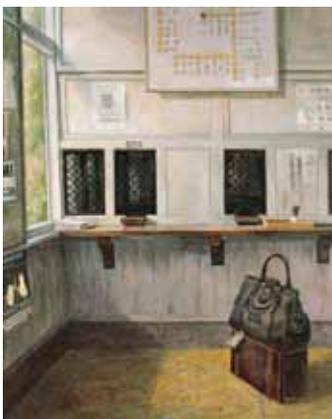
会員佳作賞  
追想 小沼 秀夫



'風の調べ' 斉藤 蕙子



明日へ 久保田 辰男



石井柏亭奨励賞  
旅 岡田 三千代



安井曾太郎奨励賞  
朝の月・人と樓家と 保坂 晶



会員佳作賞  
窓辺の光景 新井 隆



一水会では全国各地で本会関係者がそれぞれの地域に根ざした活動を、それぞれの形で自主的に展開しています。各地の通信員から寄せられた情報の要点を以下にまとめました。個々の詳細につきましては随時紹介していきますが、すでにこの「一覧」からも息吹が伝わるのではないのでしょうか。

	会の代表	事務局	後援など	特記事項、沿革など	2014年の展覧会予定
	林 弘堯	阿部賢一	北海道新聞北見支社	鷺見憲治を中心に39名で1962年に結成	9月に実施予定
	田丸 忠	田丸 忠	なし	鷺見憲治を中心に6名で1969年に結成	毎月開催
	工藤道汪	遠藤博政 023-644-8185	なし	真下慶治を中心に1978年に結成 尺水は「わずかなたまり水」の意	7月17日～23日
	廣津龍伍	飯塚和秀 029-226-0883	なし	1956年に鈴木良三、本郷惇を中心として茨城一水会創立	5、6月ごろ
	山田和夫	山田和夫 028-636-3760	栃木県教育委員会、下野新聞、栃木よみうり、栃木県文化協会	2005年に栃木一水会結成	6月3日～9日
	山名將夫	久保田宗夫 0270-32-5312	上毛新聞社など	1984年、外処旭ら4名で群馬県一水会会員の会を結成	5月3日～6月2日 新潟と合同展 池田記念美術館
	森 敬介	新井 隆 049-244-5655	川口市、川口市教育委員会、川口総合文化センター	1999年、高田誠先生と埼玉一水会の人びと展として発足	5月25日～31日
	本山唯雄	廣畑正剛 03-3324-0532	未定	2012年5月発足、年に3回の研究会を続けている。	4月25日～30日
	寺井重三	本多和矩 045-963-5112	なし	1979年神奈川一水会会員展として発足、1990年神奈川一水会作家展に改称	同会場で開催予定
	竹内 徹	野田真由美 0261-62-2793	長野県、松本市、信濃毎日新聞、NHK長野、SBC信越、NBS長野など	2006年長野一水会出品者協会発足。東北信、中信、南信それぞれ代表者をおき連携している。会報誌は年に2回発行	8月5日～10日
	村山 陽	杉森企観明 025-267-8383	新潟日報、新潟県美術家連盟	1985年、大和デパートで開催、近年会場を三越に移動、2年間休止	5月3日～6月2日 群馬と合同展 池田記念美術館
	ひろた画廊	ひろた画廊	なし	ひろた画廊が主催	未定
	山本 勇	杉村雄二郎 076-238-3513	石川県、金沢市、金沢市教育委員会NHK、MRO、テレビ金沢	一水会金沢展と併催	12月
	鈴木順一	田島健次 0593-52-3292	愛知県教育委員会、中日新聞社(共催)	1957年東海3県の15人で設立、2008年から静岡県が参加、会期中、来場者参加型のイベントを開催	4月22日～27日
	辰巳文一	茶本良隆 06-6678-6500	大阪市教育委員会、読売新聞大阪本社、読売テレビ放送	1950年一水会関西支部から改称、研水会となる。1951年、中畑岬人を中心に第1回展を開催	5月6日～11日
		茶本良隆	なし	研水会が主催	2013年12月3日～8日
	前田正夫	笠井隆良 078-791-6098	神戸市教育委員会、神戸新聞社、神戸市	1955年に発足	6月3日～8日
	辰巳文一	河石正義 0745-73-0983	奈良県教育委員会	1972年に奈良県一水会出品者協会が発足	2月12日～16日
	顧問 川上一巳、西山性一	山本佳子 0863-32-0307	なし	岡山一水会から2004年に岡山梨花会に改称	2013年12月3日～8日
	久保田辰男	木村 毅 082-273-8305	中国新聞社、広島市文化協会、ひろしまインターネット美術館(協賛)	一水会展出品者を中心とした有志により、1983年頃に発足	4月1日～6日 広島県立美術館県民ギャラリー 第4～5展示室
	越智節昇	松本光久、笹岡義彦 088-844-4879 (笹岡)	愛媛新聞社、新居浜市教育委員会、新居浜文化協会	2012年3月発足	第2回展に向けて取り組み中

# ご存知でしたか？各地の展覧会

展覧会の名称	開催回数	開催場所	開催時期	参加者数	作品サイズ	公募の有無	賞の有無
オホーツク美術展 (北海道)	50	北網圏北見文化センター	9月	120~140	30号以上 制限なし	有	有
GROUP斜面展 (北海道)	507	画廊喫茶ジャンル	毎月開催	11	8~20号	無	無
尺水(せきすい)会展 (山形)	28	山形県芸文美術館	7月	10	100号が中心 1人3点	無	無
茨城一水会展 (茨城)	51	水戸市県民文化センター	6月	22	100号以内 1人2点	無	無
栃木一水会展 (栃木)	8	栃木県総合文化センター	6月	25	30号以上 1人3点以内	無	無
群馬一水会展 (群馬)	31	高崎高島屋 高崎シティギャラリー	3月、5月年2回	26	100号と 10号前後	無	無
埼玉一水会の人々展 (埼玉)	15	川口総合文化センター (リリア)	5月末~6月初	50~60	50号程度と 30号程度 1人2点	無	有
東京一水会 (東京)	0	〇美術館(大崎)	2014年4月	40	15~50号	無	無
神奈川一水会作家展 (神奈川)	35	アートガーデンかわさき	6月	約50	50号程度	無	無
長野一水会展 (長野)	4	松本市美術館	8月	55	50~100号	無	無
新潟一水会展 (新潟)	25	新潟三越	6月ごろ	15	10号~20号	無	無
一水会委員、会員新作展 (石川)	10	ひろた美術画廊		14	4~10号	無	無
チャリティ小品展 (石川)	28	金沢21世紀美術館	12月	約80	SM~6号	無	無
中部一水会展 (愛知、三重、岐阜、静岡)	58	愛知県美術館ギャラリー	4月	約170	50~100号	有	有
研水会展 (大阪、奈良、京都、兵庫)	64	大阪市立美術館	5月	約250	20~100号	有	有
研水会新鋭展	1	アートスペース フジカワ	11月~12月	約25	SMと30~50号	無	無
一水会兵庫県出品者 協会展 (兵庫)	56	兵庫県民アートギャラリー	5月~6月	約40	100号以内	無	無
奈良県一水会出品者展 (奈良)	42	奈良県文化会館	2月~3月	約70	15~50号	無	無
岡山梨花会展 (岡山)	10	岡山県天神山文化プラザ	12月	24~30	6~50号	無	無
路展(みちてん) (広島)	33	広島県立美術館 県民ギャラリー	3月	15~16	6~150号	無	無
四国一水会出品者展 (高知、愛媛、香川、徳島)	1	新居浜市立郷土美術館	6月~7月	33	50~100号	無	無

# 写実を追及する 第51回茨城一水会展

## 半世紀を越えて 賑わう

茨城一水会第五十一回展が、去る六月二十四日から三十日まで水戸市の県民文化センターで開催された。

出品総数は、四十五点。

百号が多く陳列され、ひろい会場は、作品の競演といった状況であった。

茨城一水会は、夭逝の天才画家として知られる水戸出身の洋画家、中村彝の弟子であった鈴木良三、本郷惇両氏を中心に一九五六年

に第一回展が開催された。

今回の五十一回展は、連日多数の入場者があり、一点一点を真剣に鑑賞され、おなじみの一水会ファンから質問を受けるなど、大忙しであった。

栃木一水会からも七人の賛助出品を頂き、一層会場が充実した。初日には、一水会代表の小川先生、寺井重三先生もお出で頂き、ご指導を賜るなど、よい勉強になった。ある入場者が、

「帰りに際して「とても楽しかった。来年も来るからね。」

という言葉に、身の引き締まる思いであった。そして、絵を描く一人として、充実した一週間を過ごすことができた。

(藤井記)



### 注目の新人①

#### 近藤孝子さん

昨年、二度目の出品で新人賞を授賞し、今年三月の精鋭展では菱形の作品を展示して話題になった近藤孝子さん。七月に三十六歳になった彼女は三重県津市在住です。このコーナー第一号として登場して頂きました。聞き手 加曾利 光男



一水会に出したキットカケは？

一昨年、四月の中部一水会に出品するようにならされた友人に勧められて、初出品の20号で佳作賞を頂きました。それで十二月の本展にも出そうということになりました。

日常生活は？

数年前に絵を描きやすい仕事に転職しました。夕方から夜中まで働いているのですが、それ以外の時間が絵を描く時間になります。

絵はいつごろから？

高校時代に入った美術部で初めて油絵を描いたのがきっかけです。自分をいろんなカタチで表現している先輩達に感動してどんどん絵が好きになりました。

卒業してからは、なかなか時間が取れず仕事の合間に一人で描くことが多かったです。生来の人見知りなのですが、不思議なことに絵を描く人には人見知りしません。一水会に入れて皆さんと絵の

## 茨城一水会年譜

- 1956年 鈴木良三・本郷惇らにより第1回展開催  
代表:本郷惇 顧問:鈴木良三  
(事務局:村田清・藤井和亮)  
22名、38点
- 1959年 第2回茨城一水会展
- 1961年 第3回茨城一水会展
- 1963年 第4回茨城一水会展  
代表:飯田実(第8回展より森島正浩)  
(事務局:森島正浩、第8回展より藤井和亮)  
…以後第15回展まで毎年開催
- 1976年 第16回茨城一水会展  
代表:山口武
- 1978年 第17回茨城一水会展  
代表:山口武  
…以後毎年開催  
第21回展~23回展まで宮本正義  
第24回展~34回展まで森島正浩  
第35回展~47回展まで亀下貢  
第48回展 廣津龍伍(副代表:荒時邦弘)  
(事務局:第21回展~23回展まで廣津龍伍、第24・25回展 藤井和亮・関昭、第26回展~40回記念展まで藤井和亮、第41回展~47回展まで藤井和亮・廣澤節・飯塚和秀、第48回展 廣澤節・飯塚和秀)
- 2010年 第49回展より栃木一水会と交流展を開始(現在まで続く)
- 2012年 第50回記念展  
創立会員の作品展示を行う
- 2013年 第51回茨城一水会展  
代表:廣津龍伍  
(事務局:廣澤節・飯塚和秀)  
22名、38点

# 豊かな風土と歴史 第4回長野一水会展

## 作家の「かお」が見えてきた!

第四回長野一水会展は、長野一水会出品者協会の主催で八月上旬、松本市美術館にて催された。同展は松本市「井上百貨店」での一水会巡回展(十五回展まで開催)を發展させたもので、会員間の親睦研修と地域の美術文化向上に寄与している。

「年々良くなっている。新人の中に頑張った作品があった。」(小川先生)「描き込んだ作品が多く、力強く感じた。」(山本先生)とのお言葉を頂き、本協会篠原昭登顧問は「それぞれの顔つきが絵に表れてきたのは大きな進歩。」と身近に接して下さる先生ならではの感想を述べた。懇親会では、本協会竹内徹代表の「小規模な地方展にも本部からお二人の先生に来て頂けるのは大変有難い。感激だ。」との挨拶を受けて小川先生は「十五年続いた井上百貨店での巡回展が閉幕し、その後にひとつの何かが生まれたという事を思う

と大変感慨深い。」と述懐し、一同は個々の歩みをその言葉に重ね合わせた。更に「名だたる先輩たちが信州を土台に活躍された歴史があるが、それはそれとして皆さんには、自分のモチーフを見つけて己の道を突き進んで欲しい。」と続けられた。二日目からは猛暑のなか来場者数は連日一四〇名を数え、「ホッとする良い絵」「重厚だ」「一見地味だが揺るぎがない」「忠実な描写に魅せられる」など好評を得た。

井上百貨店社長の奥様が来場され、ご覧頂いたのも嬉しい出来事だった。大成功を収めた今回展だが、三年間入会者が無いなど課題も多く、広報宣伝活動による会員の増加が緊急の課題である。

(市川記)

## 平成25年度 長野一水会出品者協会の活動

- スケッチ会(参加者16名)  
5月18日~19日 妙高高原
  - 南信作品研究会  
6月8日 伊那市竹内美術館  
7月28日 下諏訪彩美堂
  - 中信作品研究会  
7月11日 松本市美術館
  - 総会、懇親会  
8月6日 まつもと市民芸術館
  - 第4回長野一水会展  
8月6~11日 松本市美術館
  - 合同作品研究会  
8月29日 松本市美術館
  - 第75回一水会展  
9月19日~10月3日 東京都美術館
  - 人物画研究会  
講師:池田清明先生  
11月23日・24日 松本弓道場
- 〈年2回会報を発行〉



話をできるのがうれい  
いです。  
— 絵の描き方について  
お聞かせください?  
— 好きな画家は?  
— 今後の予定は?

実際に見えているものが自分に与える刺激を、画面の中では色や線の持つリズムの響き合いとして表現できたから楽しいなと思います。でも現実はまだまだほど遠く、今は描いた絵のザワツキを聞くのが精一杯です。でもそういつた時間のやり取りが絵に残っていったらいいかなと思っています。  
お会いしたのは七月下旬でした。  
絵の話になると俄然熱く語りだします。近藤さんにお会いしたらまず絵の話で盛り上がりましょう。



# あのころから これから

小川 游先生アトリエ訪問

― 一水会入会前後のことについてお聞かせください。

― 生意気なところがあって、高田先生の弟子でありながら一水会なんぞという気持ちがあったね。

― 二科会に入られたのは？

― 往年の二科は誰しも頭にあるでしょ？ 坂本繁二郎、小出楢重、藤田嗣治、熊谷守一、…みんな二科出ているんだから。一水会だって安井先生はじめ皆、二科出身なんだ。

― だから二科こそ洋画の聖地だと思ひ六く七回出したが、わけあってやめた。

― その後しばらく三年くらいどこにも出さなかった。

― けれどもそうすると大作描かなくなっちゃうんだよ、やつぱり。だからこれではいかんなあと思って、高田先生が「お前どこにも出さなくては駄目じゃないか。一水会に出したらどうだ。」と言ってくれたのをきっかけに

出しはじめた。

― 高田先生は僕が二科に出す時だつてがんばれと言って励ましてくれた。「昔、絵描きはみんな二科から育つたんだからお前もそこでしつかりやれ。」と言ってくれた。今思うと、いずれ一水会に出すことになるだろうと読まれていたような気がしますけどね。

― だから僕が一水会にお願いに行つたらとても喜んで励ましてくれました。

― 入会後はいかがでしたか？

― 自身の絵と周囲の絵とを観て。

― 二科会に数年出したことが無駄ではなかったと思つたのは、所謂一水会風ではないですよ、僕の絵はね。出した当時一水会風じゃなかったから目立つたね。逆に得をした。

― 深沢紅子先生は「あなたのような人が一水会に出してくれて本当に嬉しい。」と傍に来て言うてくれた。

― 深沢先生からの手紙は大切にどつてあるよ。何通か貰つてんだ。「小川さんとは早くから知り合いになりたかつた。」と。僕

が、死んだ父親の遺稿集を差し上げたら、一晩で全部読んじやつたつてすぐお手紙くれた。

― 当時、創立会員はご存命でしたか？

― それは大勢いましたよ。小山先生も木下兄弟も有島先生も裕先生も。

― 安井先生は僕が出した時は亡くなつていた。柏亭先生も山下先生もいなくなつたね。

― ただ、ろくに口もきいたことはないけれどね。畏れ多くて傍にも寄れなかつた(笑)。

― 初出品(第三〇回展)で一水会賞を受けられました。当時の画生はどのようなものでしたか？

― 学校の先生やっていたから夜しか描けなかつた。夏休みとね。今、学校の先生夏休み無いんだつてな。絵なんて描いていられない。

― 僕は夏休みに集中的に描けた。普段は、クラブ活動などやつて帰宅して六時か七時、一杯飲んで夕食後一度寝て、十時か十一時に起きて風呂入つてからアトリエに入った。そして朝三時頃まで描いてもう一度寝て学校

に行つていた。それはもう受験生みたいだった(笑)。ずーっと三十年くらいやつたらうか。定年より前に辞めたけれどもか受験生みたいだったですよ。

― 二科やめて二、三年どこへも出さなかつた以外はずっと公募展に出してたから、学校の先生辞めて急に絵を描き始めたのではない。

― 今思えば辛かつたけれどそうして来て良かったようにも思ひますね。

― 追い込みになると二晩くらい完全徹夜ということはよくあつた。まだ若かつたからそういうこと出来たけれど今はとても駄目。その反動で暗くなると鳥のように活動停止(笑)。

― 校内美術室、準備室を使われることは？

― 僕は、自分の絵は給料貰う場所では描かないという主義だったから。給料を貰つていていゝるではそれだけのことをしてはまづいつてそれだけは自分に課していた。ただ、夏休みは別。中学の先生だった頃は、八畳一間のアパートに女房と僕と子



木下 孝則先生 作



供二人で、絵を描くスペースなんか無いから子供の頭踏んづけるような状態だね。けれど夏休みは毎日学校行って美術準備室で描いたね。絵を描く充分なスペースが無かったからそうするしかなかった。

—スケッチ旅行はされましたか？

うん、それはもう学生の頃から。アルバイトで貯めたお金持ってたね。場所は南房総。僕の青春は南房総。

南房総の絵を発表したのはずっと後になってからだけれど、写生といえば南房総。あちらで知り合いが出来ちゃって、今でも行けばどんどん上がって鍵しまつてあるところまで

分かってるんだ。留守にはその鍵開けて入って、布団引張り出して寝てた。平気なんだ(笑)。家族同様にしてくれていた。

—今年、六十七年振りに生まれ故郷(中国吉林省四平市)を再訪されましたか？

生れた時は四平街と言っていたが、後に街がとれて市になりました。

—如何でしたか？

複雑だな。本当にまあ、感無量でしたよ、それは。一口に言えば変わりようの凄まじさに啞然とした。

向こうの人たちの気分は高揚して、建設ラッシュで物凄い勢い、底力は感じるけれどね。

当時日本人が作った街というのは、落ち着いたいい街並みだったんだよ。道路から家並みからそれが文化の違いなんだから僕らがあれこれ口出しできることではないが、まあ今はペンキを塗りたくった家並みでね(笑)。

—これまでの一水会での生活を通して強く印象に残る絵はありますか？

ますか？

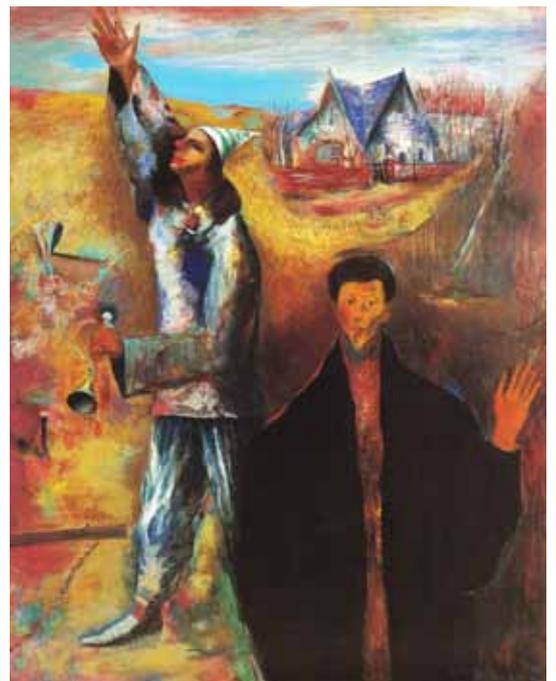
やはり、回顧展や何かの時に見せられた先生たちの若い頃の絵、例えば木下孝則先生は、大家になってからのバレリーナとか薔薇しか僕らは知らなかった。売れっ子でね。

けれど、勉強時代の絵がぼーんと出てくると、ぎょつ！と言うくらい良いんだよ。木下孝則先生の、背中から見た裸婦なんかね、本当に良かったな。ああいうのはすげえなあと思ったね。だからそういう勉強していないとな。

高田先生が亡くなってから記念展の時、遺作を並べたけれど、ああいう絵なんかは二十代三十代の絵。晩年の一見装飾的な表現も、ああいうしつかりした勉強の上に成り立っているのだから…。そういうことだな。

高田先生だって安井先生を神様のように思っている、安井先生の影響から逃れるための苦しい格闘をやっている、それとはともやっていますよ。高田先生自身がそういうコメントを書いています。

初めの話に戻るけれど、その先生を本当に尊敬していればその影響を受けたままでいい



シハイラプソディ F100 第30回記念一水会展 一水会賞

けないんでね。先生を超えて自分の世界を創って初めて尊敬したことの証になるわけで、ただ模倣しているのは尊敬の証ではないと思う。

自分の尊敬している先生がした勉強のようなことをやって自分の世界を創っていかないと。これはなかなか難しいことで口で言うほど簡単にはいかないと思いますけどね。

—人はいかがですか？器量の大きさとか、感心するようなお人柄など。

死んだ小林哲夫さん、何か大きな存在だった、僕にとっては。環境が彼の性格を形成したのかとその時思ったな。「暹王公」という同人展もいっしょにやった。

小松崎邦雄さんだってね、大した人だった。

浮田克躬さんというのは年中  
絵の具だらけで審査に来て、手  
でもズボンでも絵の具だらけで  
面白い人だったなあ。浮田さんは  
本山さんと同級生、小松崎さん  
は高校も芸大も僕より二学年上  
人柄としては尾崎正章さんと  
か深沢紅子先生とか本当に尊敬  
できた。

—先生のこれからについてお聞  
かせ下さい。

自分の事ってか、い、も、分、か  
らないや…。

—絵のテーマとしては北海道で  
すか？

ただ北海道であろうと南房総  
であろうと、そこに託して行く  
ものは僕の場合には、どこどこ  
の風景と言うことだけではなく  
て、絵のテーマとその表現方法  
は少しずつ動いているのだけ  
ども、一九九五年の春に初めて  
北海道に行った時には、ホッと  
するような安らぎを感じてこれ  
だ！と思えましたね。そこに  
幼少期を過ごした旧満州の広大  
な大地を思わせるような、私に  
とっての原風景がありましたね。

高田先生が「絵は最後は人生  
観だよ。」とよく言われていた。  
絵は技術だよ才能だよと言われ  
たら先は塞がれているけれど、  
「最後の勝負は絵は人生観だな。」  
ということをよく言われた。「そ  
れが全て決めて行くんじゃない  
かな。」ということをよく言われ  
た。そうだとすれば僕は自分も  
良い仕事に向かえるかと思った。  
絵は才能で全て決まると言わ  
れたらもうお前はやつても無駄  
だと言われるのと同じこと、他  
人に誇れる才能なんて無いんだ  
から…。けれど人生観というの  
は自分で蓄えられる。それを耕  
すためにはやはり本を読むこと  
だと思った。だから本はよく読  
む方かもしれない。

そういうもので自分の中の人  
生観を耕すこと。そんなことを  
考えています。  
大体いいかい？  
—今日は貴重なお話をお聞かせ  
いただき有難うございました。  
とんでもない。  
—あのころ、これから」  
以上

短 信

竹村文男氏が地域文化  
功労者表彰を受ける

会員の竹村文男氏が平成25年  
度地域文化功労者表彰を受けま  
した。

全国各地域において、芸術文  
化の振興、文化財の保護等、地  
域文化の振興に功績のあった個  
人及び団体に対して、その功績  
をたたえ文部科学大臣が表彰す  
るもので、芸術文化分野から個  
人表彰は49名。

永年にわたり、画家として優れ  
た作品を発表するとともに、高  
知県美術家協会等の要職にあつ  
て、地域の芸術文化の発展に貢  
献した実績を評価されたものです。  
おめでとうございます。

第53回一水会選抜展

出品予定作家

小川 游	川村 親光	本山 唯雄	寺井力三郎	吉野谷幸重	吉崎 道治	田中 義昭
越智 節昇	小島 義明	浅見 嘉正	辰巳 文一	鈴木 益躬	寺井 重三	さきや あきら
久保田辰男	武藤 初雄	佐藤 道雄	篠原 昭登	弦田英太郎	山名 将夫	小泉 元生
田島 健次	玉虫 良次	丹羽 章	斉藤 蕙子	稲原 吉男	鈴木 順一	山本 耕造
池田 清明	山本 勇	浅見 文紀	一の瀬 洋	杉森企観明	廣畑 正剛	山田 和夫
青木 年広	新井 隆	市川 広美	宇野のり子	大谷 芳滋	岡野 信子	笠井 隆良
加曾利光男	茅野 吉孝	川村のり子	菊池 洋二	久保 博孝	黒鳥 正巳	斎藤由美子
須貝 昌春	鈴木 喜博	相馬 順子	高橋 阜	滝沢美恵子	竹内 徹	武田 三起
戸苅 武宏	西 真里子	保坂 晶	松澤 泉次	宮本 裕之	村上 選	山下 審也
山本 佳子	弓手 研平					

会期:2014年2月26日(水)～3月4日(火) 会場:日本橋三越本店6階特選画廊  
盛岡巡回展(深沢紅子野の花美術館):3月28日(金)～4月10日(金)



# 一水会スケッチツアー in 長瀬

参加者43名岩場に「イーゼルの花」花！

## 恒例行事

## 一泊二日のスケッチツアー

## 今回の舞台は秩父長瀬です

埼玉県秩父郡長瀬町の「長瀬（ながとろ）」は、荒川上流の渓谷で全長約6km。関東山地から九州まで細長く分布する結晶片岩の隆起により形成された、関東の代表的景勝地。

二日間天候にも恵まれ（写生時間帯だけ晴れる♪）皆さん寸暇を惜しんでスケッチに励みました。

浅見嘉正先生、鈴木益躬先生、さきやあきら先生が現場で指導して下さり、夕食後の勉強会では、作者との対話を通して一点、夜の更けるのも忘れて丁寧な批評をして頂きました。

ツアー参加者は関東圏をはじめ、北海道、山形、長野、新潟、石川、愛知、三重、奈良、和歌山、大阪からの計四三名。往きのバス車内では自己紹介、帰りは旅の感想や反省・意見などに話が弾み、和気あいあいの中に真剣さも。

質問には山本耕造先生が応じ、さきや先生が「次回は魚の美味しい処へ行こう！」と締めくくりました。

地元秩父一水会の人たちの行き届いたお世話も受けて大成功のツアーでした。

（新井記）

## 第11回一水会精鋭展

### 出品予定作家

青木 年広	浅見 文紀	安達久美子	雨宮 嘉吉	鮎川 功	新井 隆	池田竜太郎
市川 広美	市原はるか	伊藤 尚尋	今城 俊雄	岩池 和代	宇佐美明美	宇野のり子
遠藤 博政	大野 文子	岡田三千代	岡山 豊樹	小沼 秀夫	小山 容子	加地 求
加曾利光男	金泉 陽子	河石 正義	茅野 吉孝	菊地 洋二	北澤 廣城	木村 毅
久保 博孝	久保 慶議	栗原 高光	小泉 玲子	児島 真澄	近藤 孝子	斎藤由美子
芝 教純	城 真知子	菅井 惇子	杉田 公子	鈴木 公子	鈴木 喜博	相馬 順子
高木 利一	高崎 高嗣	高橋 皐	高橋 康夫	高橋よう子	滝沢美恵子	武田 道弘
田中 敏雄	田端 敏夫	辻原久美子	土田佳代子	戸苅 武宏	永谷 光隆	中辻 修
中村 裕二	中村 哲泰	西 真里子	橋本 満弘	平井 利明	平井 芳夫	広瀬 範
保坂 晶	政木 良一	三好 典子	三輪由紀子	村上 選	森 敬介	柳沢賢一郎
山下 審也	山本 佳子	弓手 研平	渡邊 道男			

会期:2014年3月10日(月)~16日(日) 会場:東京銀座画廊・美術館

# 一水会事務局だより

平素大変お世話になり、ありがとうございます。上野駅から

【蕨駅】下車、徒歩一〇分。廃校になった旧川口市立芝園中学校。川口市より文化事業を目的とした団体を対象に、今年の十一月中旬から五年間無料で空き教室を借りられるという情報を得て、2教室を借り受けることにしたものです。

今年の一水会展は七五回記念展ということもあってか、入場者二万五千人を数える盛況ぶりでした。これも運営の先生方をはじめ出品者一同のご協力の賜物と感謝申し上げます。

今回は記念賞が設けられてそれに伴い多くの会員が新しく誕生しました。受賞された方のお名前等、各地の新聞社から問い合わせも多数あり、今後の活躍が期待されています。

## あなたのアトリエで使っていないイーゼルをお送りください

次のような良いお知らせがあります。一水会関係者の研修に利用できる場所を以下のように確保すること



旧川口市立芝園中学校

一水会に関わる人々が表現の向上を目指してお互いに切磋琢磨し、作品の講評や技術指導を受けたりする共有のスペースですが、定期的にワークショップを開設し

て小、中、高生や一般の人を対象とした美術への啓蒙活動を行う事なども考えられます。そのためにイーゼル二〇脚を寄付していただけることが現在決まっています。【蕨駅】下車、徒歩一〇分。廃校になったイーゼルや石膏像、モチーフ等ご寄付くださる方がありましたら、事務局にご一報ください。みなさま、何卒ご協力お願いいたします。

## 安易な『創作』態度 大いに疑問

近年、写真の使い回しとされますが既出品の作品とほとんど同じ構図で描かれた絵や、安易に写真を絵に写し換える作業に終始していると思われる作品があるよう、それを指摘する意見が多く寄せられています。著名な作家の例を挙げるまでもなく、現在では絵画制作の際、写真を利用することは普通に行われていることですが、そこには発想と表現の工夫が欠かせません。自らの力で創造することは必ずしもありませんが、絵画制作の醍醐味は、まさ

にそこにあります。己自身の感性と工夫をもって表現することを、いつも大切に考えて精進して行きたいものです。

## 最近の動静

- 【逝去】 菱田義宣先生(運営委員)・森岡貞弘氏(会友)・川端哲雄氏(会友)
- 【退会】 黒沢由郎氏(会友)・東海林恭子氏(会友)
- 【休会】 扇谷章二氏(会員)・柳田伸郎氏(会員)

## 訃報

菱田義宣先生の逝去を悼む  
予てより病氣療養をされていた運営委員の菱田義宣先生が、去る10月20日にご逝去されました。  
フランス仕込みの洗練された画風で存在感を示すとともに、そのお人柄は多くの方に親しまれました。心よりご冥福をお祈りいたします。

## 編集後記

「写真」という言葉は、このごろあちこちで目にし耳にもするのだが、「写」と「実」とが結び合い、強い説得力をもってこちらに迫る、あるいは引き込まれる、そんな絵に出会うことは殆どない。  
K・M

「写真の定義」が見失われつつある今、それを論じて再確立するのには、一水会ほどふさわしい集団はないと思っている。  
A・T

「新聞作るから手伝って！」と声を掛けられたのは今年三月の精鋭展会場でした。それ以来、見よう見まねでやってきました。どうせやるなら楽しくやろう！との気持ちだけが頼りでした。読んで楽しいものに仕上がっているでしょうか？  
何でも結構です。リ  
S・A

「写真の定義」が見失われつつある今、それを論じて再確立するのには、一水会ほどふさわしい集団はないと思っている。  
A・T

「新聞作るから手伝って！」と声を掛けられたのは今年三月の精鋭展会場でした。それ以来、見よう見まねでやってきました。どうせやるなら楽しくやろう！との気持ちだけが頼りでした。読んで楽しいものに仕上がっているでしょうか？  
何でも結構です。リ  
S・A

